

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

園名	金の峯幼稚園
----	--------

1. 活動のテーマ

<テーマ>

水遊びと砂遊び

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

- ・大型の固定プールと、大きな砂場が設置されている環境を生かして、水や砂に親しめる機会を多く持つことができる。
- ・水の感触を体全体・五感で味わうことで「やってみたい」「できた」「おもしろい」等の喜びを味わう。

2. 活動スケジュール

<プール指導>

- ・ぶくぶく…水慣れ
- ・バシャバシャ…顔・頭が水で濡れる
- ・手のお皿…顔つけ
- ・手の水中メガネ…水の中で目をあける
- ・流れるプール…水の中を歩く
- ・毛のび…頭・顔を付けて浮いてみる

<砂遊び>

- ・色水、葉っぱで水遊び
- ・砂場で裸足の感触を味わう
- ・砂と水を利用して、遊びを発展していく(じょうろ、筒状の玩具、シャベル、バケツなどの準備)

3. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・活動のために準備した素材や道具、環境の設定
- ・活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり 等を記載ください。

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、教諭との関わり等)

- ・プールの衛生管理、水遊びで予想されるペットボトルや水遊び用玩具、日除けテントなどの準備をする。
- ・プール指導では、鼻先しか顔が付けられなくても「顔付け出来た！」と喜んで見せてくれるなど、少しずつ水に慣れていく様子があった。
- ・砂遊びでは、水遊び用の玩具を駆使し、試行錯誤しながら水を流す作業をすることで、友達との会話が多くなり、役割分担をして夢中で楽しむ姿があった。



4. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・作りながら、色々な考えが浮かび、友だちと話し合い、共有していく中で、新しい関係が増えていた。
- ・遊びながら砂の性質を学び、工夫する姿が見られた。
- ・友達と協力して作る事の達成感を感じられた。
- ・プールでは、水への恐怖心が遊びを通して薄れていく姿があり、月齢や経験の有無を考慮して、始動を緩やかに進めていくことが肝心であると感じた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

園名	金の峯幼稚園
----	--------

1. 活動のテーマ

<テーマ>

造形あそび

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

- ・ 絵画、造形活動を楽しむことで、子ども達のやりたい気持ちを育てていく。
- ・ 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。

2. 活動スケジュール

- ・ 年間18回の講師の指導がある。
- ・ 絵具、クレヨン、ハサミ、紙粘土、のり他様々な素材に触れる楽しさを味わう。
- ・ 自分の中のイメージを膨らませて、表現できる楽しさを味わう。
- ・ 他の友達の作品を観賞することで、認め合う。

3. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・活動のために準備した素材や道具、環境の設定
- ・活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり 等を記載ください。

(準備)画用紙、テープ、折り紙、はさみ、のり、クレヨン、カラーペン、養生シート
空間能力や創造性のあるものまで、年間を通して活動していくことで、子ども同士のつ
ぶやきや友達の真似をするなどの関わり、会話が増え、自分の作人に満足し、自己肯定
感が高まっている様子が見られる。



4. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・偶然的に出来るおもしろさ、見立ててイメージを持つ楽しさなどの五感を使って遊ぶ経験が多くできた。
- ・友達の作品を観賞することで、会話の場面が増えた。
- ・普段何気なく使っている素材、廃材に手を加えることで、そこに命が宿り、大切にしようとする優しい気持ちが芽生えた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

園名	金の峯幼稚園
----	--------

1. 活動のテーマ

<テーマ>

体操教室

<テーマの設定理由>

子ども達の進退の応力、協調性、社会性を目指し、楽しみながら強い身体を作っていく。

2. 活動スケジュール

- ・年間36回講師の指導
- ・基本運動…走る、飛ぶ等の動作を入れたサーキット
- ・マット運動…横転・前転
- ・平均台…横歩き・前歩き
- ・とび箱…とび乗り、とび越し
- ・ボール…投げる、キャッチ、転がす、ドッチボール
- ・鉄棒…とび乗り、前回り、後ろ周り、逆上がり
- ・縄跳び…へびとび、前回し、後ろ回し、駆け足とび、交差とび

3. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・活動のために準備した素材や道具、環境の設定
- ・活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり 等を記載ください。

<鉄棒>

- ・鉄棒の下にマットを敷き、落下の際の安全性をはかる。
- ・とび乗りしやすいように、台を置く。
- ・逆上がりの際は、足をかける台を設置する。
- ・鉄棒チャレンジカードを作成し、楽しみながら鉄棒に親しめるようにした。
- ・教諭は講師の先生のアドバイスを受け、正しい補助を学ぶ。



4. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・初めの内は怖さで両手を離してしまう子が多いので、危険を教える。
- ・自分の感覚が回転することで変わることがおもしろいという感覚につながった。
- ・少しずつ、鉄棒で出来ることが増えると、自然と鉄棒に触れる子が多くなった。
- ・チャレンジカードなどで可視化することで、次もやってみようという向上心につながった。